

総務常任委員会

「漁村センター」、「Y・Sセンター」、「母子生活支援施設」を視察

1月10日、「公共施設等総合管理計画に係る施設の現状について」をテーマに、漁村センター、Y・Sセンター、母子生活支援施設の現地視察を実施しました。

各施設の概要や老朽化・修繕箇所等の現状、維持管理経費や利用状況、今後の解体・修繕計画、利用計画等について説明を受け、漁村センターでは、各部屋の現状を、Y・Sセンターでは、プールや浴室、食堂、ワークセンター等の各施設、修繕中のボイラー等を、母子生活支援施設では、外装や各部屋の現状を確認し、各施設の詳細な把握ができました。



「日頃市地区公民館」、「立根生活改善センター」、「市民体育館」を視察

2月13日、「公共施設等総合管理計画に係る施設の現状について」をテーマに、日頃市地区公民館、立根生活改善センター、市民体育館の現地視察を実施しました。

各施設の概要や老朽化・修繕箇所等の現状、維持管理経費や利用状況、今後の修繕計画等について説明を受け、日頃市地区公民館では、各部屋の現状や屋根の状態を、立根生活改善センターでは、各部屋の現状を、市民体育館では、主競技場や柔剣道場、2階観客席等の各施設を確認し、改修等に向け大いに勉強になった上に、今後の活動の参考になりました。



産業建設常任委員会

「おおふなと夢商店街」と意見交換

2月5日、復興後を見据えた商店街の振興策について調査するため、おおふなと夢商店街を訪問し、飲食店を中心に堅調な業績の店舗が多い一方で、復興後の先行きに不安を抱く店主が多い状況について説明を受けました。

その後の意見交換では、「正しい経営判断には正確な状況把握が欠かせない。大船渡駅周辺の状況が変化し続ける状況下では、市との情報共有の強化が必要」、「イベントを集客に結びつけるためには、駐車スペースの整備や、事業の内容に工夫が必要」との意見が出ました。



市政調査会

釜石鶴住居復興スタジアムと釜石港を視察

2月1日、市政調査会（議員全員で構成）では、釜石鶴住居復興スタジアムと釜石港を視察しました。

復興スタジアムでは、周囲の環境との調和を目指す基本コンセプトに加え、1万人超の観客の安全を確保する避難路整備などラグビーワールドカップを見据えた施設の整備状況を視察し、スポーツを通じた交流人口の拡大について理解を深めました。

釜石港の視察では、ガントリークレーンなど優れた港湾設備や整備が進む道路網などを背景に、コンテナの貨物取扱量が昨年過去最高を更新したことについて説明を受け、港湾の振興を考える上で、港ごとの長所を見極めることがますます重要になることを再確認することができました。



市議会防災訓練

市議会独自の災害対応訓練を実施

2月4日、東日本大震災を教訓とした災害行動マニュアルに基づき、今年で5回目となる市議会防災訓練を実施しました。

今回は、津波のほかに、余震による大規模な土砂災害の発生をも想定しての実践訓練としました。

訓練では、電話や無線等での議員の安否確認や、市議会災害対策会議への参集を行い、会議では、地区ごとに災害状況や要望等を報告し、情報の収集・整理をし、市当局へ取りまとめた情報を提供しました。

また、心肺蘇生法やAEDを使用した救命講習、移動系防災行政無線の操作方法等、実践に備えた実のある訓練となりました。



復興特別委員会

第3次提言書を市に提出

2月27日、復興特別委員会（議長を除く議員19名で構成）では、大船渡市の復興と将来のまちづくりに向けた諸課題に対する第3次提言を取りまとめ提出しました。総務、教育福祉及び産業建設の3つの部会に分かれて、各常任委員会の活動を通し、復興事業の進捗を確認しながら調査等を行ってきたもので、被災跡地の活用策、被災者の心のケア対策、企業訪問による相談体制の強化など、3分野30項目にわたります。

特別委員会は同日、議長に報告を行い、3月5日には、議長と特別委員会の正副委員長及び幹事3名が、市長に提言書を提出しました。復興事業の着実な進展が、復興後も持続可能な地域社会を実現していく礎（いしずえ）となることから、市長に対して、速やかに取り組むよう要望しました。

提言書の詳細は、市議会ホームページからご覧いただけます。

